（様式６）

［認知症対応型共同生活介護用］

１．　第 三 者 評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成２０年３月３１日

【評価実施概要】

事業所番号	2871700429
法人名	株式会社　ほすたあ
事業所名	ぐるーぷホームあかとんぼ
所在地	兵庫県南あわじ市八木大久保６０３－１ （電　話）0799-43-2600

評価機関名	兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通り２－１－１８		
訪問調査日	平成20年2月6日	評価確定日	平成20年3月31日

【情報提供票より】（平成１９年１２月２５日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	昭和・(平成)　１５年　１１月　１５日	
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計　27　人
職員数	25 人	常勤１３人，非常勤１１人，常勤換算１３．３人

（２）建物概要

建物構造	鉄骨　造り
	2 階建ての　１～　２　階部分

（３）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃（平均月額）	25,000　円		その他の経費(月額)	20,000　円
敷　金	有（　円）		(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（　円） (無)		有りの場合 償却の有無	有　／　無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり　1,000　円			

（４）利用者の概要（平成１９年１２月２５日現在　）

利用者人数	27 名	男性　6 名	女性　21 名
要介護１	5	要介護２	6
要介護３	9	要介護４	6
要介護５	1	要支援２	0
年齢	平均　85.3 歳	最低　70 歳	最高　100 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	橋田内科医院、河上整形外科、正木歯科医院

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは田園、住宅が混在した環境にあり小学校に隣接しているので2階のルーフガーデンから子供の声や元気に遊ぶ姿がみられる。経営の母体は河上整形外科で施設長も看護師であり、医療連携体制を取っているので医療面で安心できるホームである。また、施設長（グループホーム・デイサービス）が先頭にたち職員と共に「してあげる」「業務的」「施設的」な介護から、認知症高齢者を支えてあげたいと言う原点に立った「自然」な介護へと意識改革を行い日々の暮らしの中で実践している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：第三者4）
	前回の第三者評価結果を玄関に掲示し、家族や地域の人々に見て貰っている。課題として取り上げられた利用者主体の介護計画の作成、職員の研修受講機会の拡大等について全職員で改善に取り組み成果がみられる。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：第三者4）
	今回の自己評価は各ユニットのリーダーが職員とが話し合って纏め、管理者とリーダーの間でも話しあっている。その結果ユニット間で利用者のレベルが異なるので夫々の項目に対する取り組み方が違うことが見えてきた。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：第三者4，5，6）
	利用者、家族、地域の代表として区長等にメンバーとして加わってもらい、19年度は1回開催した。ホームの取り組み等を説明しているが、開催回数が少ないこともありホームのサービスの向上に活かしきれていない。委員のスケジュールの調整は難しい面もあるが、概ね2ヶ月に一回開催しホームの取り組みを理解して貰ったうえでホームの抱える課題等について話し合ってほしい。時には警察、消防の人にも参加してもらい見守り、防犯防災等へのアドバイスを受けてはどうか。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：第三者7，8）
	毎月家族に送っているあかとんぼ新聞に写真つきで日々の暮らしの様子を知らせているが、一律的なものになっている。血圧等の健康状態や、医療機関での受診結果等家族の知りたいことについて電話、手紙、家族の訪問時等に報告するなど個々に合わせた対応が望まれる。介護計画については利用者、家族と十分話し合うよう努めている。また、第三者評価での家族アンケートはホームにとっての貴重な意見として享受している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：第三者3）
	自治会に加入し、納涼祭は近隣の保育所と共同で開催し、地域の人々にも参加してもらった。また、青年団の獅子舞にも立ち寄ってもらうなど地域の人々との交流に取り組んでいる。隣接の小学校との更なる交流をはじめ、地域の清掃やリサイクル活動など地域で必要とされる活動にも参加し、共に暮らす住民の一員としての役割を担うことが期待される。

2.　第　三　者　評　価　報　告　書

第三者	自己	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	現在の理念はオーナーが「陽だまりの中にいる生活」を支援しようとの基に作り上げた。グループホームが地域密着型のサービスに位置づけられ、施設長も交代して約一年経過したので、ホームは利用者を管理するのではなく地域住民との交流を行いながら、自然に生活してもらう事を謳った理念を職員と話し合いながら作り変えようと取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全ての職員が理念を意識し共有するよう各ユニットの玄関に掲示するとともに、さらに理解を深めるよう日々のケアについて理念をベースに職員ミーティング等で話し合っている。利用者と接する時「してあげる」「管理する」と言う言葉遣い、態度になっていないか常々話し合っている。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、納涼祭は近隣の保育所と共同で開催し地域の人びとにも参加してもらった。また、青年団の獅子舞にも立ち寄ってもらう等地域の人々との交流に取り組んでいる	○	隣接の小学校との更なる交流をはじめ、地域の清掃やリサイクル活動など地域で必要とされる活動にも参加し、共に暮らす住民の一員としての役割を担う事が期待される。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の第三者評価結果を玄関に掲示し家族、地域の人々等に見て貰っている。課題として取り上げられた利用者主体の介護計画の作成、職員の研修受講機会の拡大等について全職員で改善に取り組み成果が見られる。今回の自己評価は各ユニットのリーダーが職員と話し合い、管理者とリーダーの間でも話し合って纏めた。ユニット間で利用者のレベルが違うので夫々の項目に対する取り組み方が違うことが見えてきた。		

第三者	自己	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、市の担当者、地域の代表として区長等にメンバーとして加わってもらい１９年度は１回開催した。会議では、ホームの取り組み、第三者評価の結果、地域での行事への参加等が話し合われたが、開催回数が少ないこともありホームのサービスの向上に活かされていない。	○	委員のスケジュールの調整に困難さがあるとはいえ、概ね２ヶ月に１回開催し、ホームの取り組みを理解して貰ったうえでホームの抱える課題等について話し合ってほしい。時には警察、消防の人にも参加してもらい見守りや、防犯防災等へのアドバイスを受けてはどうか。
6	9	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームからは重度化対応の現状やホームの考え方、市からは地域密着型サービスの経営上の課題等について積極的に情報交換を行っている。また、デイサービスを併設している事もあり、地域包括支援センターの職員も度々訪問し協力関係を維持している。		
４．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には最近の状態を報告しながら家族の知りたいことを把握するようにしている。毎月家族に送っているあかとんぼ新聞に写真付きで日々の暮らしの様子を知らせている。また、買い物等については殆どの人は立替払いとし毎月請求書と共に報告している。	○	血圧等の健康状態や、医療機関の受診結果等家族の知りたい事について電話、手紙、家族の訪問時等に報告するなど個々に合わせた対応が望まれる。また、預かり金のある人については定期的な報告と家族が報告を受けたことに対し捺印等での確認が望まれる。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を目に付きやすいように各ユニットの玄関に設置し、また訪問された時には積極的に声かけを行い苦情等を気軽に言ってもらえる機会づくりに取り組んでいる。介護計画については利用者、家族と十分話し合う機会を持つよう努めている。第三者評価での家族アンケートは貴重な意見として享受している		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の他事業所への異動は行わずユニット内で一人の職員が二人の利用者を担当するシステムを取っている。担当制により利用者一人ひとりへのきめ細かな支援を行うことにより馴染みの関係を構築している。		

第三者	自己	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
5．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全職員を対象とした勉強会を月一回程度開催し、希望者が受講している。認知症高齢者介護実践研修、リーダー研修等外部研修も受講している。また、研修を受けやすいように勤務時間の調整も行い、受講者は資料等を回覧して職員が情報の共有が出来るよう努めている。	○	さらには、全職員の段階に応じた受講計画の立案、また、働きながら学ぶための他事業所の見学、同業者や地域の人に助言を貰える関係づくりにも努めると良いのではないか。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	南あわじ市のグループホーム連絡会に加入している。連絡会が発足して未だ日が浅く、今までに１回開催され情報交換を行った。今後見学や勉強会を予定している。	○	県域や全国組織の連絡会への加入、また地域の認知症ケアで研鑽が積める事業者との交流の機会を持ち見学や相互評価などを通じて更なるサービスの質の向上への取り組みが期待される。
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前には利用者と家族が一緒に見学に来てもらったり、併設のデイサービスを利用してもらって徐々に雰囲気に慣れてもらっている。入居後も併設のデイサービスを利用されている方もいる。また、ショートステイの利用が可能な事も家族に説明している。		
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	昔されていた仕事の話、家族の話、若い時の話などに耳を傾け、また、調理師をしていた利用者に料理を教えてもらったりして「共に過ごし学び支えあう」関係を日常の中で築いている。ただ一部の職員の会話の中に介護する、介護されると言う利用者を一方の立場に置いているのではないか思われる所もあり、利用者と共に過ごし支えあう関係を日々の暮らしの中で築く事の重要性を全ての職員が認識してほしい。		

第三者	自己	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **1．一人ひとりの把握**					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ホーム内で１対1になった時や、入浴の時などに一人ひとりの思いや意向を意識して把握するように取り組んでいる。また、意志の疎通が難しい利用者では家族に聞いたりアセスメントをヒントに利用者の希望や意向を職員で話し合っている。		
2．より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	以前は計画作成担当者が一人で作成していたが、第三者評価で指摘された事もあり職員、ケアマネも加わり日々の暮らしの中での気付き等を話し合いながら作成している。必要に応じて看護師、理学療法士、歯科衛生士、主治医等の関係者の意見を聞いている。また、家族にも説明し話し合っている。	○	アセスメントでは利用者や家族の意向、希望が把握されているが、それを計画に反映させた、より本人本位の計画が作成されることが期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の暮らしの中での気付きを記録しておき、概ね6ヶ月に1回見直しを行っている。また、状態が変わった時は変化に応じて利用者、家族、関係者と話し合い見直しを行っている。新たな要望や変化が見られない場合でも、月に1回程度モニタリングし、状態や経過を話し合ってほしい。		
3．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族に通院介助をお願いできる所はお願いしているが、協力医療機関等への通院や車イス対応の車が必要な利用者の通院介助を行っている。また、医療連携加算体制を実施しており、普段から状態の変化を把握出来るので早期にスムーズに医療を受けながらホームでの生活が継続されている。		

第三者	自己	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
4．より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	殆どの利用者は協力病院の医師が主治医となっているが、入居前のかかりつけ医が主治医となっている利用者もあり、希望する医師による受療が行われている。母体法人の医師は勿論のこと、協力医療機関の主治医ともいつでも気軽に相談できる関係を築いている。また、入居時に、通院介助や受診結果の報告の方法についてきっちり話し合っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時にホームの「重度化した場合に対応に係わる方針」を説明し、利用者、家族の意向を確認している。しかし、利用者の状態、家族の意向、また、ホームの対応状況が変わった時には主治医を含めた関係者で話し合い、今後の方針を共有している。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **(1) 一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	トイレ誘導時はもとより、日々の暮らしの中でさりげない声かけでプライバシーを損なわないよう留意している。あかとんぼ新聞にも名前や年齢を記載せず、記録類も戸棚に保管する等プライバシーの確保に取り組んでいる。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は利用者から話しかけられた時は、仕事中であっても仕事を中断して話を聞き、外出の気配を感じた時は職員が3人体制の時は外出に付き添う等利用者が主人公となって暮らせるよう支援している。また、施設長も職員の都合で「利用者を管理しない」と言う強い信念のもとで職員の教育を行っている。		

第三者	自己	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房は外部委託しており、委託業者が献立作りから食材の調達、調理まで行っている。利用者は下膳やテーブル拭き等を職員と共に行っているが、おやつ作り（たこ焼きなど）は、出来る利用者が調理の段階から参加している。また、利用者の咀嚼力に応じた調理法の工夫も行い、サンドイッチなど利用者が食べ慣れていないものは押し付けることも無く職員も一緒に食事を楽しんでいる。	○	せめて月に1回でも利用者の好みを踏まえたメニューづくりから買い物、調理、食事後の後片付けまでの一連の流れを、利用者の意思を大切にしながら利用者が職員と一緒に行うことが期待される。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な流れはあるものの、個浴が主体の2日に一回の入浴、希望によりデイサービスで使用している大浴場の利用、血行の悪い人には足浴など利用者のその時々の希望、状態に応じた入浴を支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりのこれまでの生活や、日々のかかわりの中から役割や楽しみごとを見出し、洗濯物たたみ、お盆拭き、カラオケで軍歌を歌ってもらうなどその人が主役となれるような役割、楽しみごとを見出している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日はその時々の体調に気を配りながら、グループで近くに散歩に出かけている。また、歩行の困難な利用者は車イスで隣接の小学校へ児童の遊ぶ姿などを見に出かけているが、ホームから外に出かけない日も多い。	○	近くへの散歩、以前住んでいた所の馴染みの店、車でのドライブ等一人ひとりのその日の希望、状態、天気に合わせた外出が楽しめるようホームとして工夫されることをお願いしたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	各ユニットとも職員が揃う10時から16時までは玄関は施錠していない。２階の利用者は一人では階段が危険なので、外出の気配を察知した時は階段を、また歩行が困難な人はエレベーターを利用してさりげなく職員が付き添って外出している。１階の利用者でも付き添って外出するが、職員が地主でもあり、気軽に近所の人に声をかけやすく見守りを依頼している。		

第三者	自己	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	水害については殆ど心配の無い地域である。火災等については防災マニュアルを作成し、年一回消防署と連携して消火器の使い方をはじめ避難誘導訓練を実施し、防火管理者がホームの前に住んでおり近隣にも協力を依頼している。また、淡路島全島で給食協議会を組織し非常用食料の共同備蓄と給食の補完体制を整えている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、水分量について概ねその摂取量を把握しており、特に医師から指示されている人にはより詳しく把握している。水分不足にならないようコーヒーなど好みのもので水分が十分摂取出来るよう工夫している。また、栄養のバランス等については委託先の栄養士がチェックしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **(1) 居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各ユニットの玄関には下駄箱等もあり家庭的雰囲気があるが、食堂や居間にはテレビ、マッサージ器、テーブル等があるものの施設的雰囲気で生活感、季節感に乏しい。また、壁面にはバレンタインデイのハートの紙飾りがあるが、認知症の高齢者には馴染まないのではないか。	○	共用空間は施設的で少し殺風景なので、使い慣れた馴染みのある家具の配置や季節の草花を飾る等季節感、生活感をさらに取り入れる工夫が望まれる
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前自分が飼っていた動物の写真を飾ったり、化粧品、鏡などを持ち込んでいる利用者もいるが、多くの利用者はベッドもホームが用意したものであり画一的な感じがある。特に重度化がすすんだ利用者の居室には馴染みのものや、使い慣れたものが少なく施設的な感じが強い。	○	重度化するにつれて居室での生活時間が多くなるので、居室ではなおさら安らぎが得られるよう家族にも協力を依頼したい。また、ホームとしても看取りまで視野に入れているので、壁面の利用も含めて馴染みのあるもので安らぐ居室となるよう更なる工夫が望まれる。

※ ▒ は、重点項目。